

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372801045		
法人名	社会福祉法人 綾友会		
事業所名	グループホーム 桜の丘		
所在地	熊本県上益城郡甲佐町西寒野1151-2		
自己評価作成日	平成29年1月12日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の状態の変化に速やかに対応できるよう日頃から観察見守りを行い、協力医療機関との連携もあり、安心して暮らして頂けるホームである。木造平屋作りのホームで、ゆったりとした造りで、広いリビングがあり、ガラス戸越しに、テラス、庭へと続き開放感がある。すぐそばの花壇や菜園により季節を感じられるように、また入居者とともに収穫した野菜などその日の献立に入れている。気候の良い季節にはドライブを計画しホーム外での楽しみを提供している。

『桜の丘』にふさわしく、春には桜色に包まれるホームは、木の香りのする古民家風の建物の中で、一人ひとりの大切な時間により添う介護が実践されている。ソファやテーブル、畳の間・デッキなどゆとりのある室内では入居者同士が談笑したり、歌や踊りを何回も披露される方が安心されるまで、手拍子や相槌を入れる職員の姿からも温もりあるホームの日常を垣間見ることができた。今年度より就任したホーム長は、これまでの法人内での経験を活かし、更に『入居者が真ん中』の生活を送れるよう、職員の持ち味を活かせる職場環境に努めている。季節ごとにほこる畑の野菜は日々の調理に活用され、弾む会話の食卓の光景が訪れるものにも安心感を与えてくれるホームであった。今後も入居者・家族を支え、そして地域に愛される『桜の丘』の活躍に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、クレドの項目の一つを一日の理念目標として、実践につなげている。	「利用者主体、個別性・継続性、地域とともに」の理念の下、17項目の行動指針を定め、小冊子にして職員が携帯するとともに、ホールに掲げ周知徹底を図っている。また、1日1項目の目標を日めくりにしたり、日誌に書いて共有し、ケアの拠り所としている。理念や行動指針の実践の振り返りは、施設長を交えた研修会や申し送り時に行い、「利用者が真ん中」をモットーにチームワークを持って日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、高校の体育祭や文化祭に出かけ交流をしている。食材の買出しも入居者と一緒に出かけ、町の人たちとの交流をしている。	理念の1つである「地域とともに」の実践として、入居者が地域とつながりながら暮らしていくことを積極的に支援している。地域の祭り(大祇神社)には、区長、老人会長からの案内で出かけた。初詣(甲佐神社)も毎年参拝している。また、地元高校より文化祭等の案内を受けたり、ボランティア活動での交流が続いている。地域商店の利用も心がけ、入居者と共に食材や日用品の購入に出かけている。	熊本地震の影響で、地元の鮎まつりの中止など本年度は少なからず地域行事にも影響が出たようである。ホームは開設当初から地域との交流や法人の機能を生かした貢献にも尽力している。今後も地域の中のホームとして、入居者が安心して過ごせるホーム運営に努めていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学園大より実習生を受け入れ、地域密着型サービスとして小規模多機能とグループホームの違いを学んで頂いた。本年は地震の影響で、認知症サポーター養成講座の実施もできなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、区長、老人会長、家族会会長、行政、入居者代表と施設職員メンバーで、入居状況、行事報告を行っている。区長から祭の案内を受け、出かけている。また、菜園の作物についてもアドバイスを受けた。	熊本地震があったものの、2ヶ月に1回定期的に開催されている。会議では、映像による活動状況等の報告と意見交換が行われ、地域の道路整備状況や季節の開花情報等も出され、外出支援や菜園づくりのアドバイスにより入居者の活動支援につながっている。また、防犯対策についても話し合われるなど、地域に守られていることに施設長は感謝を語っている。	会議は、ユニット型特養と合同のため、毎回、特養の会議室で開催されている。ホームの様子、雰囲気も見てもらうことでサービスの提供や入居者の状況報告がより伝わると思われる。今後は、ホームでの開催についても検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内状や、介護保険の要介護認定の更新の申請時には、入居者と一緒に出かけホームの様子を伝えている。	行政担当者からは、毎回運営推進会議への参加が得られており、ホームの実情を理解してもらいながら、行政情報やアドバイスももらっている。熊本地震の時は、直接状況確認が行われている。また、介護保険更新等のいろいろな手続きを通じて、連携、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、出かけていかれる方には、見守り、付き添いをしている。本体施設の身体拘束委員会に参加して身体拘束『0』を維持出来るように努めている。	法人全体の身体拘束委員会に参加し、その結果をスタッフ会議で報告するなど、身体拘束の弊害を正しく認識し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。また、スピーチロックの弊害についても意識を常に持って、ケアにあたっている。入居者の安全確保のため使用している人感センサーについては、家族への説明と了承を得ている。職員のストレスケアについても、チームワークを大切に、お互い助け合うよう、行動指針等で確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、スタッフ会議にてその都度全員で確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない入居者の方について、その身元引受人の方と成年後見人制度の利用について相談した。以前、司法書士にも相談されたとの事。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、家族連絡後ホームにて重要事項説明後契約を行っている。解約時には、退去後の支援について話をし、家族の不安を解消出来るように努めている。改定の際は、家族会や面会時に説明を行い、理解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催して意見を聞くように努めている。面会時には入居者の様子を伝えて、話しやすい雰囲気を作っている。	年2回(6月、2月)、家族会を開催し、意見要望等を聞いているほか、面会時にも尋ねている。入居者の意見要望等は、普段の関わりの中で声掛けをし、把握するよう努めている。家族代表、入居者代表は、年6回開催の運営推進会議のメンバーにも入っており、意見等を表せる機会となっている。ホーム内外の苦情相談窓口については、入居時に重要事項の中で説明している。	入居者、家族が意見要望を表せる機会として、内容、方法等を職員で話し合わせ、定期的なアンケート調査の実施を検討されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	企画管理委員会(月1回)、運営推進会議(回/2ヶ月)行い、意見や提案を聞いている。	月1回の法人の企画管理委員会には、職員からの意見等をまとめて伝えている。ホーム長は、日頃から、職員とのコミュニケーションを図り、施設長と連携しながら、意見を出しやすい職場環境づくりに努めており、出された意見提案は、検討のうえ運営に反映している。また、年2回の(9月、3月)の個人面談の機会を設け、意見等を聞いている。今年度も清拭用タオルの保温庫購入が行われ、より気持ちの良い排泄支援に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度を導入している。各自が自らの力を発揮し、成長を実感できるように支援し、職員面接を年2回実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の職責に応じた研修会を実施(回/年)月次研修を6回開催している。スキルアップ研修として外部講師による研修に1名参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老社協、県社協や郡内の同業者の会議に参加するように努めている。上益城郡内の同業者より、たまに連絡や相談がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本年は新規の入居が4名あり、それぞれに本人の話を聞き、安心して暮らせる様にその都度対応している。家族や、入居前の施設職員に情報提供を依頼して、安心して暮らせる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族との面談、入居後家族や身元引受人に密に連絡をし、要望などを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプラン期間を概ね1ヶ月及び有効期間を考慮して、その間入居後の様子を伝え、次の計画の話をしている。ケアプランは家族の同意を得て作成している又、状態の経過を見ながらプランを変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を入居者に声掛けし、一緒に行っている。一人一人に出来るであろう事を見極めながら行動を共にする様にしている。切り干し大根作りや梅干し漬の手伝い、花壇の花植えや草取りなどを一緒に行った。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	翌月の園外行事を毎月知らせ、行事に参加される家族もおられる。敬老会、交流会、記念行事には、家族と一緒に食事をとれるよう計画実行している。また、家族の要望を聞きながら実施日の選定を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭り、高校の体育祭や文化祭に出かけ交流をしている。食材の買出しも入居者と一緒に出かけ、町の人たちとの交流をしている。	地域の祭り、初詣、季節の花見、買い物など馴染みの場所に出かけたり、親戚、家族の面会時には次回の訪問を依頼する等これまでの関係が途切れないよう支援している。また、料理、掃除、洗濯物たたみ、野菜作りなど、趣味や特技が継続できるように支援している。	訪問当日も知人の面会でソファに座り嬉しそうに談笑される方や、畑の野菜(大根・カブ)を収穫し、手際よく水洗いまで済まされる方もおられた。今後も馴染みの関係を継続して支援していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ部落の出身の方や、昔の知り合いだったりと同じ町内なので、お互いに話がしやすい、和やかな雰囲気の中で過ごされている。外出や散歩では、車椅子を押して頂いたり、話し相手になられたりされている。入院された時には、一緒にお見舞いに出かける時もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本年度4名の退去があり、本体施設に入居されたり協力病院に入院されたりされた。施設には用事がある時に面会したり、その後家族から自宅の菖蒲を見に来て下さいと案内を受けたりした。また入院された方については、その後も何度か連絡し状況を確認した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族会や入居契約時に事前指定書の説明を行い、意向を伺っている。また日々の会話の中で思いや要望を聞き、把握に努めている。カンファレンス等で話し合い、様子も観察して暮らしやすい生活に努めている。	職員は、日々、入居者とコミュニケーションを取りながら、日常の中で思いや意向を把握し、支援につなげている。把握が困難な場合は、表情で察しながら、本人の思いや意向に近づくようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居の際に、前の施設や病院、ご家族、ケアマネージャーから情報をとり、本人の好みや、暮らし方などを把握している。また職員で情報を共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	総合記録シートや申し送り時に現状の把握に努めている。またスタッフ会議の際に再度情報の交換を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで入居者の思いを検討している。家族の来訪時に意見を聞いたり、必要な時は管理栄養士、訓練員、PT等に意見を聞いている。	プラン作成については、入居に至る経緯、家族要望等も反映させており、スタッフ会議で個別に検討し、カンファレンスは、家族の意向を聞きながら、実施している。専門的見地からの意見が必要な時は、法人での月1回のカンファレンスで管理栄養士や理学療法士等から意見を受けている。プランを家族説明する際は、わかりやすい言葉で行い了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートに、日々の様子やケア等を個別に記入し、職員で共有している。またケアの変更等が必要な時は日誌に記入し、次のケアプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に住んでおられる子供さんの宿泊利用の受け入れを行ったり、地震で被災された方の入居を優先した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りに祭りに出かけたり、本体施設のリフトカーを借用し、定期的に全員で出かけている。また高校生との交流会としてゲームや食事会を実施した。他にも本体施設の訓練員や管理栄養士、協力病院のPTの助言や指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診の支援を行っている。また月に一度精神科医の往診を受けている方もいる。必要に応じて、皮膚科の往診、歯科、眼科、整形外科の受診の支援を支援をしている。	これまでのかかりつけ医を継続して支援しており、現在は緊急時対応などの面から全員が母体医療機関をかかりつけ医とし、定期受診が行われている。また、他科受診についても、往診や受診など必要な支援が行われている。職員は表情観察や総合記録シートで日々の健康管理に努めており、異変などがあれば早めの受診支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化や総合記録シートの中から変化が確認できた場合は、看護師に伝え、必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリー(情報提供書)を作成し、申し送りを行っている。病院の連携室と情報交換、相談し、安心して退院できるように連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在1名のターミナル期の方が生活しておられる。定期的に家族へ情報提供し、本人、家族の意向を確認しながら、ケアに努めている。またそのためのマニュアルも作成している。	家族にはホーム指針の説明と共に重度化・終末期の意向を必要に応じ確認している。終末期支援の必要になられた場合は、個別の資料を作成し、その方らしい最終の支援をホーム全体で支えることとしている。エンゼルケアや緊急時対応に関するマニュアルの整備は、職員の安心に繋がったようである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間帯、緊急時の対応について併設施設と連携がとれるようマニュアルを作成した。感染症対策として嘔吐時の対応として勉強会を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、月1回の部署内の防災訓練を行って防災意識を高めている。年末には地元消防団の夜警見回りがあり、毎週日曜日には、消防見回りがある。また地震の際は、停電があり、普段から懐中電灯の電池確認をきちんと行うようになった。	ホームでは年2回の防災訓練と、月1回を目標に部署内防災訓練を実施している。地域代表者(老人会長・区長など)にも訓練への参加を依頼しており、年末の消防団夜警見回りなど安全や災害対策でも地域の支えが確認された。今回の熊本地震では、ホームに大きな被害はなかったものの、懐中電灯の電池確認など日頃からの安全管理の重要性を新たにしている。	ホームの災害訓練への取り組みを、家族や運営推進会議の中で報告することは、安心に繋がるものと思われる。また、災害時の食料備蓄は本体施設で管理されているが、ホーム職員に内容や量など周知しておく必要があると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を持った対応、丁寧な言葉遣いを心がけている。特に入浴時、排泄時には羞恥心に充分配慮している。	入居者の尊厳に配慮した対応については、理念の共有や“たいせつな人の大切な時間によりそう”ことに、チームワークを持って日々のケアにあたっている。呼称は基本的に苗字にさん付けとし、同姓の場合には下の名でも対応している。入浴や排泄介助は羞恥心に配慮し、男性職員の支援時は了承のもと行っている。個人情報や守秘義務の徹底については、法人やホーム内でも周知徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人の意向や思いをくみ取り、それに応えるように努めている。食べ物や飲み物の嗜好に合わせて選択してもらっている。また、その都度本人の意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を尊重し、確認しながら、一人ひとりのペースに合わせている。起床・就寝時間、食事時間など本人の状態や希望に沿って支援している。散歩などの希望があれば付き添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時は職員が共に洋服を選び、おしゃれができるように支援している。化粧をされる方もおられた。お祝い行事の際は、お化粧品のお手伝いを行った。不足の衣類などがあつた場合には、家族に連絡し、補充していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、片付けは職員と共にしている。又、菜園の収穫で季節の野菜を美味しく食している。一人ひとりの能力に合わせて手伝いを依頼し、同じ人ばかりに偏らないよう配慮している。	献立は季節や入居者の希望も取り入れた家庭的なものを職員によって作成されている。菜園のものなど野菜を多く取り入れたり、夜はもち麦を使用することで自然排便にも繋がっている。パン食が苦手な方には、米飯を準備するなど個々の嗜好にも対応している。行事食や誕生会には祝膳として刺身(夏場以外)も提供している。食材購入や野菜の収穫、茶碗洗いなど入居者のできる事で食への関わりを持ってもらっている。職員も同じ物を一緒に摂っており、アットホームな雰囲気の方が更に食事時間を楽しめるものになっているようであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい形態での提供や好まれるものの提供、補食、水分摂取に努め、体重の増減にも充分注意している。体重に対する目標水分量をシートに記入し、摂取量を申し送り、確実にとれるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。できるだけ自分で磨いていただき、不足部分、仕上げは支援している。義歯は週1回超音波洗浄器を使用し、週2回洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合記録シートを確認し職員間で情報を共有し、排泄の間隔が長くないようにしている。尿失禁が多い方に関しては、トイレ誘導の間隔を短くし足り、パットの種類の検討をして対応している。	記録シートや職員の気づきなど個々の排泄状況を共有し、自立の方の継続や声かけ・誘導を行っている。また、排泄用品や支援方法を小まめに検討することで、紙パンツから布パンツになられたり、排泄用品の使用が減少していくなど、家族の負担軽減にも繋がっている。トイレ内は掃除が徹底され臭気もなく、排泄用品もプライバシーに配慮し保管されている。また、今年度はタオル保温庫の購入により、更に気持ちよく清拭支援が進められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養課など他部署と連携し、便秘が改善できる食品の提供を新たに行ったり、天気の良い日には散歩をしてももらい活動量を確保して便秘の予防に努めている。できるだけ下剤に頼らないで排便ができるように工夫して、下剤なしになった方が1名下剤の量が減ったかたが2名となった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望や体調に合わせて入浴を勧めている。拒否のある方には、声掛けの仕方を工夫したり、時間や曜日をずらしたりして入浴してもらっている。	入浴は週2～3回の支援や、汚染の状況ではその都度対応している。また、拒否の方には時間を変更したり、庭掃除や野菜の収穫後など、「汗をかきましたね～」と、発汗から誘導するなど、工夫しながら週1回は入ってもらうようにしている。季節湯も取り入れており、菖蒲や柚子風呂では、全員が楽しめるよう2日間に渡って行っている。	浴室内は清潔に管理されており、今後は窓棚に置かれた洗剤など物品の収納を検討することで、湯船に浸かった眺めも良く更に寛げる入浴時間になると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、お手伝いや運動などで身体を動かしてもらい、夜間にしっかり入眠できるようにしている。疲労感の訴えがある時は、夜間に影響しない程度でしばらく居室で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が必ず目を通す総合記録シートに薬の情報表を挟んだり、服薬している薬が変更になった際は、申し送り記録シートの二重で記入してわからない時は、その都度看護師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人との会話の中から好きな事、やっていたことなどを聞いたり、家族から以前の話を聞いたりして、お手伝いや趣味、レクリエーション活動につなげ日々の生活に張り合いがもてるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のよいときに月1回ドライブに出かけたり、買い物に同行していただいたり、時間がある時は、少人数の方を近隣のドライブに誘っている。また家族に協力してもらい、外泊や外出の機会ももうけている。	ホームは自然豊かな環境であり、樹木や菜園など季節を感じながら散歩や散策が日常的に行われている。地元神社への初詣や買い物など地域資源を活用したり、正月の帰省や外食など家族の協力による外出も行われている。入居者と職員が手を取り、ホーム周辺を散歩する姿や、畑の大根を収穫し水洗いされる方など、ホームの日常が窺える光景があった。また、年1回の業者によるワックスがけの日は、顔なじみとなったカラオケ店で昼食も兼ねながらひと時を楽しむ外出も行っている。	帰宅願望のある方にも、職員と一緒にホーム周辺を散歩したり、家族へ連絡し、一時帰宅などの協力も行われている。今後も家族や地域の協力を得ながら入居者の外出支援に努めていきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	オヤツや食材購入の際に職員と共に出かけてもらい、買い物のお手伝いをされている。また家族に確認して買物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかると話しをしていただき、家族へ電話の希望があればかけている。手紙が届くと本人に知らせ、家族へ連絡している。また本人が落ち着かれない場合は、家族に連絡し、しばらく話しをしていただき、安心感につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はゆったりした空間が広がり、リビングの大きな窓ガラスからは、外の景色が楽しめるようになっている。また季節ごとに貼り絵や飾りを作ったり、して季節感を感じてもらっている。	木の温もりを活かしたホーム内は、寛ぎながらテレビを視聴できるようテーブルやソファのコーナーそれぞれにテレビが配置されている。広めのウッドデッキやひな壇飾りが置かれた畳の間をはじめ、一人や入居者同士で休憩できるスペースもゆとりを持って確保されている。入居者にとって懐かしくもある日めくりカレンダーは、毎年準備し目に付く場所に掲げている。室温は季節や状況に応じて設定し、換気や加湿器へ酸性水の使用など感染予防などにも十分配慮している。	経年と共に物品も増えていくことから、今後は定期的な見直しを行うことで、更にスッキリと居心地の良い共用空間に繋がっていくと思われる。取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやダイニングテーブル、畳みのこあがりなど、一人になれる場所は複数ある。それぞれ気の合ったもの同士で話をしたり、一人で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれたり、また家族が家具や私物の配置等を考え、定期的に来訪される。他に被災された入居者には、本人宅まで使用できる家具を取りにいった。窓辺には花や観葉植物を置いている。	入居時に家族へ馴染みの品の持ち込みについて例をあげながら説明を行う他、衣替えの協力を伝えている。定期的な訪問で、本人の状況に応じて家具の配置を見直しされる家族や、居室で宿泊をともにされる方など家族にとっても居心地のよい環境であることが窺える。今年度の熊本地震後の入居では、必要な品の選択に職員が自宅へ出向くなど、出来る事で安心した入居生活を支援している。入居時から身体機能が変化される方もあり、ベッドなど家族と相談しながら変更も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台は居室と共有スペースにある。畳みの間やソファ、長テーブルの椅子、食堂のイスなど、できるだけ、自分で立ったり、座ったりできるような備品配置となっている。又、分かりやすいようにトイレの表示の位置を工夫し足り、暖簾をかけて目印にしている。		